



「こだわらない」という、究極のこだわり。

Dr. 平澤欣吾の「こだわらない」EMR・ESD [Web 動画付]

ESD時代のEMR論とナイフ別ESD攻略法

平澤 欣吾 著

がん研有明病院上部消化管内科・胃担当部長

平澤 俊明

正直、タイトルを見たときは少し戸惑った。

「こだわらない」って、どういう意味なんだろう？

でも、ページをめくるうちにすぐわかった。——これは“こだわり抜いた人”にしか語れない言葉だ。

兄貴のように慕う平澤欣吾先生。

横浜市立大学附属市民総合医療センターで、年間700件を超えるESDをこなす現場の達人。

その言葉には、机上の理屈では届かない重みがある。

「速く・安全に・確実に」。

どんなに難しい手技でも、患者にとっての最善を見極める——それが、欣吾流“こだわらない主義”の真髄だ。

本書は、単なる手技書ではない。

第1章「平澤流の鉄則」には、内視鏡医としての信念が詰まっている。

「患者さんと信頼を築く」「自分の目を信じる」「デバイスに固執しない」「引き返す勇気を持つ」。

どれも、日々の臨床で心に刺さる言葉ばかりだ。

第2章では、観察の本質を問う。

NBIと白色光の切り替え、肉眼型の読み取り、病理との対話——。

診断あつての治療という当たり前を、改めて思い知らされる。

そして第3章、「EMRか、ESDか」。

その永遠の問いに、欣吾先生は“理想より現実”で答える。

臓器別の戦略やUEMRの工夫は、まさに明日の臨床に直結

する知恵だ。

第4章では、スコープやナイフ、フードの選択を合理的に整理。「デバイスにこだわらない」という潔さの裏に、圧倒的な経験と安全への執念が見える。

そして圧巻の第5章「平澤流EMR・ESDのTips」。

局注の層作り、スネアの角度、介助者との呼吸合わせ、穿孔・出血への初期対応——。

ライブデモのように臨場感があり、読んでいるだけで手が動きそうになる。

特に各種ClipやOTSC、ROLM、EHS、PGA充(5861)法などの比較は、なぜこの手技を選ぶのかを論理的に腑に落とさせる。

さらに、全34本のWeb動画が紙面の熱をそのまま伝えてくれる。スコープの角度、力の抜き方、そして“間”——。

そこには、言葉より雄弁なリズムが流れている。

読み終えたとき、心に残ったのは「技」ではなく「哲学」だった。こだわりすぎない潔さ、引き返す勇気、そしてチームを信じる心。それは手技書の枠を超え、医師としてどう生きるかを問う一冊だ。

20年の臨床の知と人間味が凝縮された、まさに現場で生きる教科書。

——こだわらない柔軟さこそ、最善の一手を導く力。

欣吾先生のメッセージが、深く胸に残った。

●医学書院 刊 B5 頁192 2025年10月
定価:8,800円(本体8,000円+税10%)
ISBN 978-4-260-06254-1